

環境文化の聞き書き事業に参加した高校生の皆さんの感想

episode.01 特産品を支える枕崎の林業と薪

水流 聡敏

実際、自分たちの身の周りにはどんな産業があるのかわからなかったが、このような機会があったことで、自分が住んでいる地域で行われている産業がわかった。取材で聞いた時は驚くことばかりだった。一番苦労したことは、取材中に録音した音を文字に起こすことだった。全部の作業が終わると、新聞記者の方の速さを、身をもって感じるのができて良い経験になった。

日高裕麻

取材などしたことがなく、緊張した。林業のことは初めて知ったので、自分の仕事を選んでいく上でも勉強になった。

赤池虎士郎

初めての聞き書きはとも緊張しました。人に聞くこと自体初めてだったので、メモをとるタイミングや聞く内容を決めてなくて戸惑いましたが、とても良い経験となりました。

episode.03 笠沙の定置網漁

上籠 海晴

環境文化の聞き書き事業に参加させていただき、ありがとうございました。

私は笠沙出身ですが、取材をさせていただくにあたり、片浦港や定置網漁、地域についてできるだけたくさんのことを調べました。調べていくにつれ、知らなかったことも多く、改めて地元への理解が深まりました。

取材時はずっと緊張してしまい、なかなかスムーズに取材することができませんでしたが、考えた質問を全て取材することができました。また、文字起こしの際には全員で分担して作業し、文章にまとめる際には「話し手の方が一番伝えたいのはどこだろうか？」とみんなで考えました。時間はかかりましたがなんとか文章をまとめることができました。

今回、「地域の方に取材をきて、原稿にまとめて記事にする」といったなかなか体験できない貴重な経験をさせていただき、勉強になりました。ありがとうございました。

大隣 歩

今回の環境文化の聞き書き事業に参加させていただきありがとうございました。

取材前は、話し手の方は厳しい方なのかと勝手なイメージを持っていましたが、実際に会ってみるととても優しく、緊張せずに取材を行うことができました。

取材後の文字起こしについても時間がかかってしまいましたが、何度も繰り返し音声データを確認し、正確に文字起こしをすることを心がけました。

今回の聞き書き事業を行い、笠沙という地域だけでなく鹿兒島の歴史も知ることができ、とても楽しく勉強ができました。ありがとうございました。

前原 摩穂

私は今回この環境文化の聞き書き事業に参加してきて、取材する時の声を大きくしたり、質問をするスピードを速くする事ができなくて苦戦していたけれど、本番では何とか上手くいきました。原稿作成では相手の言葉を読み取りながら作業したのですが、中々言葉が分からなかったりしたところもありました。でも、しっかり聞いていたらだんだん聞き取れたので聞き書きをするこの大変さを改めて知ることができました。

episode.02 未来に繋ぐ笠沙の「嗜み」～カラスミと鯛木～

幸村 勝生

今回、自分自身このような体験が初めてでとても貴重な体験ができたと思います。

環境文化の話聞いて、後世に語り継いでいかなければならないと改めて自覚し、一生懸命思いを込めて文章をまとめました。最初は、パソコンに内容をまとめる作業など大変な部分も多かったのですが、みんな協力して乗り越えることができました。

今回の記事が多くの人に読まれ、後世に残すお手伝いができれば良いと思いました。

福元 一真

これまで経験したことがなかったので非常に新鮮だった。知らなかった伝統などを知る機会ができて嬉しかった。今回学んだことを、これからも伝えていこうと思った。

宮田 一平

今回、聞き書きを通して自分が知らなかったことや仕事の深いところまで知ることができ、とても貴重な経験ができました。

伝統的なものをまだ知らないものもありますが、一部でも知ることができて、とてもよかったです。

書き起こしはとても苦労しましたが、達成感が味わえて良かったです。

episode.04 「幻の川畑みかん」の復興

内田 涼

自分の中で大変だった事は、パソコンで文字をまとめたり、打ったりする作業が大変でした。友達と教え合いながら作業する事ができました。取材に向けて心掛けた事は、大きな声でハキハキとしゃべることです。

内之倉 花音

初めての割に話し手の方の話を丁寧に聞いた。ただ、話を聞くときに、あいつちをもう少し打った方がいいと思ったし、重要だと思うことは紙に書いておいても良かったと思う。自分達が普段聞いていなかった方言があり、取材の音源を文字にする時、聞いて分からないところもあり、そこが少し大変だった。

大坪 海斗

川畑みかんの取材で初めてのインタビューをして自分の順番はまわってこなかったけど勉強になった。

取材が終わってその後の書き起こしも初めてだったので最初はうまく聞きとれなくて難しく、何回も聞いて時間はかかったけど最後までできたので良かったです。

文章をまとめる時に分からない言葉などがたくさんあって苦労しました。声が聞こえづらかったりしたので、次あったら少し声を大きくしてレコーダーをもう少し近くにおいた方が良かったかなと思いました。

下八重 里夏

音声を聞きながら書き起こしをしたが、よく言葉が聞き取れなかったり、話が少し途切れていたりして、文字を起こすのが大変だった。また、記事にしたときに読み手に伝わりやすい文章になるよう、自分なりにまとめて分かりやすくするのが少し大変だったが、楽しかった。取材に行くことができなかったため、書き起こしをしながらか川畑みかんについて知ることができたため、今回の取材で得た知識を今後の川畑みかん復興プロジェクトに活かしたい。

episode.05 私が紡ぐ伝統文化、加世田鍛冶

比嘉 彩乃

インタビューさせて頂いた橋口さんへの印象は、取材を通して加世田鍛冶という伝統文化に対して真剣に向き合っていたことと行動なさっている方なんだなと思いました。

今回の取材テーマは「加世田鍛冶の魅力と橋口さんが鍛冶を続ける理由に迫ろう」というもので、「事前調査のため加世田鍛冶に関する資料を読んだり橋口さんに関する昔のインタビュー記事を読んだりして当日は取材に臨みました。

取材時、私たちの拙い言葉での質問に対しても丁寧に答えてくださり、しかも話を広げて加世田鍛冶に対する沢山の思いを教えてくださいました。お話しして下さる姿は始終笑顔が見られご自身が作成した作品を私たちに見せて説明して頂きました。

取材を通して自分の暮らす地域に根付いている伝統文化に触れることができて、体験までさせて頂いてとてもいい経験になったなと思います。

なぜこの土地でこの文化が生まれたのかと言うルーツを知ることができ、歴史を感じることができました。

原稿作成で苦戦したことは、書き起こしの資料の中から必要箇所を探すということでした。

私には全てが必要に思えてしまい、簡潔に伝わりやすいように取捨選択するというのが大変でした。

藤沢 星

取材を通して、養生として3年過ごした加世田で、まだまだ知らないことや魅力が沢山あるんだなと感じました。話し手の方に実際に取材し、またそれを色々な人へ伝えるために工夫して記事を書き、さらに理解が深まったと思います。機会があればまた携わりたいと思いました。

episode.07 坊津の今岳ポンカン

越牟田 花美

取材までに質問を考えたり事前に資料を読んだりした。書き起こしの作業が楽しくできた。文章をまとめるときに、整理したり読みやすい文章にした感じが大変だった。

中村 真緒

話し手の方々の印象は、仕事熱心で取材の質問にも限られた情報の中から丁寧に答えてくださる優しい方々だと思いました。

取材では丁寧な言葉遣いで質問をすることや、話し手の方々に簡潔な内容で質問をすることを心掛けた。

取材時は緊張してしまい、準備してきた質問があまりできませんでした。

取材をするということは、私にとって初めての経験だったのでも緊張しましたが、地域の歴史やポンカンの歴史など、自分が知らなかったことを知ることができて良かったです。

原稿を作成するときは、沢山ある取材の内容からどの内容をより上げるかということや、初めて読む人にも分かりやすいように取材の内容をまとめるのが大変でした。

初めてのことがばかりで上手にいかないことが多くありましたがとても楽しかったです。

今回、このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

episode.06 優しく甘い「坊津の塩」

菊永 拓人

話し手の方は、自分の仕事を心から楽しんでいらっしゃる様子でした。お話を聞いていると、仕事に対する情熱や愛がひしひしと伝わってきました。

取材テーマについて、普段から購入している坊津の塩だったので、甘さが特になこと、家族経営で作っていらっしゃることは以前より知っていたため、親しみが持てる内容でした。

川畑 悠

話し手さんの印象：優しくそうだった。

取材テーマについて：塩を作る様子を見たことがなくかつ、住んでいるところから意外と近くて楽しかった。

取材までに準備したこと：塩に関する知識の習得。疑問点の書き出し。心がけたことは黙らないようにすること。

取材の感想：緊張のせいかな話を広げることができなかったが、質問はできた。すべてを手作りで行っているのをみて凄いと感じた。また自然を駆使して作業しているのも凄い。

原稿作成の感想：まず、書き起こしに苦労した。また、要約する時にどれも大事に思えて取捨選択ができなかった。

episode.08 石が暮らしをつくる！～マチュ・ピチュ大当～

神田 しおり

話し手さんの印象
案内して下さる時も、私たちが質問をしている時も、冗談を交えて私たちの緊張を解かせてくれるような気さくな方でした。

取材までに準備したこと、心がけたこと
私たちが取材を行ったのは大当の石垣についてだったので、取材をするに当たって、大当の石垣についての歴史や石垣の作り方などの知識がなかったので、勉強して取材に備えました。

心がけたことは、質問をするにあたっての言葉遣いや礼儀など話し手の方に失礼のないようにしたことです。

取材時の感想(できたこと、できなかったこと)
できたこと：大当の石垣についての理解を深めることができた。

できなかったこと：質問をするときに緊張して、うまく話し手と話すことができなかったこと。

取材を終えての感想
緊張したけれど、大当の石垣のことだけでなく地形や町の成り立ちなどを知ることができて、とてもいい経験になりました。

原稿作成について
話し手の言葉遣いをそのまま文章にして、まとめることがとても大変でしたが、だんだんと書いているうちにこんな言葉遣いをしそつと考えることが楽しくなってきました。

泊 聖依

取材を終え、私は、長い歴史をかけて守られてきた石垣や地域とのつながり、神様や仏様をこれほど大切にしている地域があることを初めて知り、新しく世界が広がったような気がしました。

また大当の魅力を実感で伝え、「こういうこともしていきたい」と未来への希望を抱く姿がとても頼もしいと感じました。

取材時の石垣を案内していただく際に、回りやすい道で進んでくださったり、石垣に加えて海や川、山、花、植物など聞かれた素敵な自然のお話をしてくださったりしたことも印象的です。事前に調べたことよりも現地に足を運び聞き書きを行うと、見える光景や歴史、思いなど、たくさん新しく知ることができて、興味深くなりました。

原稿作成の際には、そんな皆さんの魅力や思いをどうしたら伝えるかを念頭に置き、テーマや書く順序を考え、まとめる作業が大変でした。しかし何回も文を読んでいくことに受け継ぐ思いを再確認でき、みんなで一緒に回ったときの光景や詳しいお話をしてくださった時の光景が思い起こされて、楽しかったです。

このように知らなかった多くのことに触れることができる事業に参加することができてよかったです。